ソーシャルワーク演習におけるストレングス視点の習得効果に関する研究

中野陽子（なかのようこ）・松本葉子（まつもとようこ）

〈要　　旨〉

本稿は，ソーシャルワーク演習Ⅰ(2年生)の受講者32名に対して，前期15回の授業を通じて，ストレングス視点を身につけることができたかどうかの効果を検証したものである。調査内容は，2つの事例を読み，率直な感想とストレングスを第1回目の授業と第15回目の授業時に自由記述してもらった。有効回答29名分であり，抽出されたストレングスの数は，事例1では1回目は12個だったが2回目は111個となり，事例2においても10個から119個と大幅に増加し，授業開始時の約10倍以上のストレングスを見つけることができていた。これらの結果より，演習を通じて，ストレングス視点を身につけているということが明らかになった。また，率直な感想には大きな変化がないことから，学生たちはネガティブな感情を持ちつつも専門職としての視点を身に付けているということも明らかになった。

〈キーワード〉
ソーシャルワーク演習，効果，ストレングス視点

Ⅰ.　はじめに

1.　研究の背景

2007年「社会福祉士及び介護福祉士法」改正に伴い，翌2008年3月には厚生労働省より「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について」[1)]が出され，「相談援助演習」は，かつての120時間より30時間増加して，150時間の演習教育がなされることになった。また，1クラスの学生数は20名未満と定められきめ細やかな教育がなされるようになった。さらに，演習を担当する教員に対しても，社会福祉士の養成に係る演習の指導を5年以上経験した者等の資格要件が課せられるようになった。教授内容に関してもかなり具体的な内容が求められるよう

になった。

改正前の教授内容は，コミュニケーションスキルの獲得や具体的な事例を取り上げてのロールプレイの実施，人権尊重，権利擁護，自立支援についての理解，また実習前後での指導が求められていたものの具体性には欠ける内容であった[2)]。しかし，改正後の指針では，①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通じて，具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うことが狙いとして定められた。そして，相談援助実習を行う前に十分な学習をしておくこととされ，自己覚知，基本的なコミュニケーション技術の習得，基本的な面接技術の習得，社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例を活用し，総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。また，これらの事例を題材として，インテーク・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケアの具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。実技指導に当たっては，アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発の内容を含めること。地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し，地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握・地域福祉の計画・ネットワーキング・社会資源の活用/調整/開発・サービスの評価について実技指導を行うことが明記された。相談援助実習後に行うこととしては，相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し，実践的な知識と技術として習得できるように，相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ，集団指導並びに個別指導による実技指導を行うことが明記された。

このように教授内容に関しても具体的に明示され，単に時間数の増加だけではなく，相談援助演習による教育の質の向上が求められるようになった。本学でもこの指針の内容を 150 時間で網羅できるように，ソーシャルワーク演習Ⅰ（2 年生通年），ソーシャルワーク演習Ⅱ（3 年生通年），ソーシャルワーク演習Ⅲ（4 年前期）の中でシラバスを組んでいる。この指針が出され早くも 7 年が経過し，実際に，明示されている内容を学生が習得できているのかどうか検証をすべき時期に来ているのではないかと考える。

相談援助演習の狙いとして「社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術」の習得が掲げられている。相談援助に係る知識は多岐に渡るが，ソーシャルワークの定義を外すことはできない。ソーシャルワークの定義は，2014 年 7 月 10 日にオーストラリアのメルボルンでの総会で採択され改訂がなされた。新定義は，「ソーシャルワークは，社会変革と社会開発，社会的結束，および人々のエンパワメントと解放を促進する，実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義，人権，集団的責任，および多様性尊重の諸原理は，ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論，社会科学，人文学，および地域・民族固有の知を基盤として，ソーシャルワークは，生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう，人々やさまざまな構造に働きかける。この定義は，各国および世界の各地域で展開してもよい。」[3)]と定められた。そして，旧定義にも新定義にも

共通に明記されている概念として，エンパワメント，社会正義，人権，ウェルビーイング，社会変革が挙げられる。これらは中核となる価値であり，エンパワメントをしていく際にも人権を尊重していく際にも，クライエントのストレングスを見出していくことが重要になってくると考えられる。

ソーシャルワークにおける基本的な視座は大きく分けて医学モデル，生活モデル，ストレングスモデルの 3 つに分類される。ストレングスとは英語で「強さ」や「力」を表し，ストレングスモデルは，その人自身や環境がもともと持っている「強さ」や「力」に着目して，それを引き出し活用していくものである。ストレングス視点については，1970 年代マルシオが「病理から人間の強さ，資源，可能性に注目」と提唱し，従来の医学モデル，生活モデルの 2 つの視座に一石を投じる形になった。1980 年代にはサリービー（Saleebey,D.），ラップ（Rapp,C.），ゴスチャ（Goscha,R）などが研究を蓄積し，精神障害者の地域支援へのマネジメントや児童養護施設でのケア，高齢者ケアなどにもストレングス視点が有効であることを論じた。さらに地域を資源のオアシスと捉え，問題解決を行うためのストレングスは個人や家族などのミクロレベルのみならず，地域の中にもその強さや可能性を見出せることを強調した。特にラップとゴスチャは，精神障害者の地域支援について個人と地域の潜在力を見出し，ストレングスアセスメントおよびケースマネジメントにおいてリカバリー志向の実践が本物の地域支援であることを説いている[4)]。ソーシャルワークがクライエントのストレングスへの関心を高め，個人や地域の力量を肯定的に評価するようになったのは 1990 年代に入り社会構成主義へと転換してからである。従来の原因追求，診断という問題志向の視点ではどうしてもソーシャルワーカーがクライエントを否定的に認知してしまい，それはクライエント，援助職双方の立場の違いを明らかにし，対等な関係性構築とはならない。一方，ソーシャルワーカーがストレングス視点でクライエントの健全な部分を評価し，各々のストレングスを言語化し伝えることで自然とクライエント自身が能力を発揮したり，意欲を引き出すことができたりする。このことが，必然的にクライエントのエンパワメントにつながることになる。

社会的に不利な状況であったり，なんらかの生活のしづらさを感じているクライエントは課題や問題に対して行き詰ってしまう。ソーシャルワーカーが視点を変えて状況を捉えることは，新たな側面を見出すことにつながる。つまりは環境のストレングスや個人のストレングスに着目していくことで，問題や課題をも強みに変えていくことができるのである。

ヘップワースらはその著書[5)]の中で，「ソーシャルワークを勉強する学生は，アセスメントに焦点をあてることとストレングスをもとにしたアセスメントプロセスを統合することが困難である」と述べている。つまり問題や課題と強さや資源などの二元的焦点化が苦手だということである。シーファーらはソーシャルワークの 24 の指針の中で，「ソーシャルワーカーはクライエントのエンパワメントを最大限行うべきである」[6)]と述べており，現在にいたるまでソーシャルワークにかんする書籍には必ずといってもよいほどクライエントをエンパワメントすることの重要性が記載されている。

ヘップワースらも指摘したとおり，現場に出ていない学生にとっては，どのようにストレングスを見つけるのかイメージが湧きにくいものである。それをいかにソーシャルワーク演習の授業の中で理解し

てもらい，3 年次のソーシャルワーク実習の際に活かせるかがソーシャルワーカーを育てる教員の力量だと考えている。

そこで，本研究では，ソーシャルワーク演習の授業を通じて，学生がストレングス視点を身につけているのかどうかその効果を検証していきたいと考える。

2. 用語の定義

本学では,「ソーシャルワーク」を学生により強く意識させるために「相談援助演習」ではなく「ソーシャルワーク演習」としているため，本文中では「ソーシャルワーク演習」を使用していく。

3. 先行研究の検討

先行研究の検索には，国立情報学研究所の情報検索サイトCiNii[7]を使用した。「ソーシャルワーク×演習」で検索をしたところ 63 本の論文が抽出された。これらを概観するとソーシャルワーク学会誌のソーシャルワーク演習教育と専門性に関する特集論文やソーシャルワーク研究における演習教育の特集論文が複数見られた。その他，保育や精神保健福祉分野での演習に関する論文も見られたが，2007 年の社会福祉士および介護福祉士法改正後，ソーシャルワーク演習においてストレングス視点習得の効果に関する研究は見当たらなかった。

そのため,「相談援助演習」で検索をしたところ，25 本の論文が抽出されたが，タイトルを確認すると「ソーシャルワーク×演習」と重なっているものが多かった。なお,「ソーシャルワーク×演習×効果」では 3 本しか抽出されず，いずれも本稿とは関係性が薄い論文であった。

そのため，保正[8]が演習教育の動向についてまとめた論文も参考にした。保正は，演習に関する 99 本の論文を 1990 年～ 2000 年，2001 年～ 2006 年，2007 年～ 2012 年の 3 期に分けて，さらに，年代別に演習教育のあり方を問う研究，演習教育教材・方法に関する研究，演習教授方法に関する研究，演習教育で習得する能力・効果測定に関する研究の 4 つのカテゴリーに分類し，その研究動向，特徴について述べている。その中で，保正が「演習教育で習得する能力・効果測定に関する研究」であると判断した論文の中より効果測定について論じたと思われる論文 19 本に着目しレビューを行った。その結果，演習を通じて自己覚知に効果があったと論じている研究が 7 本[9]と一番多く，地域福祉の理解に効果があったと論じている研究が 2 本[10]，グループディスカッションを通じての学習効果について論じた研究が 2 本[11]，面接技術習得に関する効果について論じた研究が 1 本[12]，自己決定の尊重について習得の効果があったと論じている研究が 1 本[13]，非言語コミュニケーションの習得に関する研究が 1 本[14]，死生観の滋養がなされたとされる研究が 1 本[15]，プレイバック・シアター導入とその効果について論じた研究が 1 本[16]あった。その他の論文は，習得の意義等は述べられているものの演習により効果があったと述べるまでには至らなかった。

さらに,「ソーシャルワーク×ストレングス」のキーワードでも検索を行ったところ，41 本の論文が抽

出されたが,「ソーシャルワーク×演習×ストレングス」では，1 本も抽出されなかった。41 本の論文について概観したところ山口[17]がストレングス教育の意義について相談援助演習を担当している教員にヒアリングを行っていた。山口は，ストレングスに関わる教育に言及した先行研究はほとんどなく，ストレングスとかかわりの深い概念であるエンパワメント研究においては先行研究があることを指摘している。3 名の教員に対し,「相談援助」系科目とそれ以外の科目でのストレングス教育内容と学生の反応とストレングス教育の意味と課題についてヒアリングをしていた。その結果，教員は，学生達がストレングス視点やストレングスを引き出す技法を身につける意義を実感していることを明らかにしている。また，教育上の課題として，ストレングスに着目し引き出していく支援過程や技術・技法の教育方法の構築，学生自身の成功体験や獲得につながる教育方法の構築,「相談援助」系科目間の教育内容を連動させる工夫の模索が挙げられていた。

この論文より，本稿の先行研究に一番近しい研究である，太田ら[18]のエコスキャナーを用いた研究にたどり着いた。このエコスキャナーは，コンピューターを活用し 128 項目を入力し，利用者の生活システム情報を収集できるものである。その役割として，①利用者の複雑な生活状況に関する多くの情報を整理・分析して保存　②収集情報をコンピュータ・シミュレーションにより有効な支援情報に処理・加工　③情報のビジュアル化により生活の変容を時系列で表示　④処理情報の活用で利用者の生活理解と課題解決への支援を推進することが挙げられている。そして，山口[19]は，ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーを用いた演習を 2007 年度から 2009 年度まで実施し，学生 52 名から感想などを記したレポートを得て，52 名中 45 名（約 86.5％）が演習を通じて事例の利用者のストレングスを「発見できた」「少し発見できた」「ある程度発見できた」と記載していたと述べている。

しかし，対人援助職としては，面接の場面で瞬時にクライエントのストレングスを見出していくことが求められる。また，直感や感性などの感覚的なものもソーシャルワーカーは大切にしていかなければならない。アセスメント能力を鍛え，瞬時に判断し，多角的な視点からクライエントを捉える能力は，何かの支援ツールに頼るのではなく，ソーシャルワーカー自身が道具となり培っていかなければならないものではないだろうか。

先行研究を概観すると，ツール等を使用せず，ソーシャルワーク演習の授業を通じてストレングス視点を身につけることができたかどうか，その効果を検証する研究は見当たらなかった。よって，本稿ではそのことに焦点を当てて明らかにしていきたい。

4.　研究の目的

研究の背景と先行研究に鑑み，本稿では，ソーシャルワーク演習の授業を通じて，学生がストレングス視点を習得することができたかどうか，その教育効果について検証することを目的とする。

Ⅱ.　ソーシャルワーク科目におけるストレングス視点の教授内容

1.　ソーシャルワークⅠ・Ⅱ

本学では,「相談援助の理論と方法」,「相談援助の基盤と専門職」の２科目をソーシャルワークⅠ～Ⅳ，ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱの６科目に分け，厚生労働省から打ち出されているガイドラインに照らし合わせ実施をしている。そして，学生は，ソーシャルワークⅠとⅡを受講してからソーシャルワーク演習Ⅰを受講する流れになっている。ここで，ソーシャルワークⅠとⅡの授業概要を示したい。

ソーシャルワークⅠは，１年生の前期科目であり，授業概要は，ソーシャルワークとは何かということを，その歴史，機能と役割，実践領域等から学び，援助関係や面接技術等の具体的な事項についても学ぶこととしている。この科目において，ソーシャルワークの定義の理解は大きな柱の一つである。ソーシャルワークの定義の解説時には，事例やDVDを用いてエンパワメントについて理解をさせている。その際には，当然，ストレングスについても触れている。また，バイスティックの７原則を教える際にも，事例を通じてストレングスの大切さを教えている。

ソーシャルワークⅡは，１年生の後期科目であり，授業概要は，ソーシャルワークの基本的な視点と相談援助の理念を確認し，ソーシャルワークのプロセスを理解する。また個別援助から，グループを活用した援助，家族への援助と学習を進め，ソーシャルワークの総合的包括的な援助の意義と課題について学んでいくこととしている。この科目において，ケース発見，インテークから始まるソーシャルワークのプロセスの理解が大きな目標の一つである。「アセスメント」の回では，利用者やその周囲の環境の強み，良い部分をさまざまな側面からみることの大切さを，続く「プランニング」の回では援助目標設定の際の留意点の一つとして問題だけでなく必ずストレングスにも注目し，その力をどのように活用していくかという視点が重要であると事例を用いて説明している。また，グループ支援についての回では，グループならではのストレングスについても触れている。

なお,「ストレングスモデル」として具体的な実践アプローチについては，３年生の前期ソーシャルワーク総論Ⅰにて教授されている。

このように，１年次においてストレングスについては，少なくとも２つの講義科目で学習をしていることになる。

2.　ソーシャルワーク演習Ⅰ

ソーシャルワーク演習Ⅰは，２年生の通年科目であり，授業概要は，総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。個別指導並びに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする援助形態により行うこととしている。シラバスに即していれば，各教員毎に自由裁量となっているため，前期は主に自己覚知と他者理解，後期は事例検討を通じてコミュニケーション技術及び面接技術を身につけることを目的としている。研究の背景でも触れたように，筆者らは，演習の授

業を通じストレングス視点を身につけさせたいと考えているため，通年を通してそのことを意識した授業を展開している。また，筆者ら２クラスは，教材及び教育内容もほぼ同じ設定にしている。

たとえば，前期の学びで行う自己覚知の中では，あるデザインを見て感想を書き出してもらう演習を行っている。この演習では，多くの学生が否定的な意見ばかり出してしまう。このことより，人間は肯定的な見方より否定的な見方をしやすい傾向にあることを自己覚知してもらっている。その上で，ペアになり「いいとこスケッチ」[20]を実施する。この演習では，聴き手と話し手に分かれて，フリーテーマで３分程度話をしてもらい，その後，聴き手だった人は語り手の良いところを見つけ紙に書いて渡してあげるというものである。この演習を通じて，意識をすれば人の良いところはたくさん見つけ出すことができること，また，褒められることの嬉しさを実感し，それはクライエントも同じであることを学ぶことを目的としている。

また，身勝手だと思われるようなクライエントの事例を読んでもらい，そのクライエントのストレングスを探し出す演習も実施している。表面的にクライエントを理解するのではなく，どのような人であってもストレングスを見つけ出すことができるということを事例検討及びディスカッションを通じて体感してもらっている。

さらに，リフレーミングも実施している。自分の短所を５つ書き出してもらい，ペアを組んだ相手に長所に変えてもらうというトレーニングを行っている。この演習を通じて，学生たちは，枠組みを変えることで短所も長所になるということを学んでいる。自己覚知をしてもらいつつも，自然とストレングス視点も身につけて欲しいと意図して授業を展開している。

他者理解では，児童虐待，認知症高齢者，身体障害者，難病，ホームレスなどの各分野について，クライエントとソーシャルワーカー（もしくは支援者）が出てくる映像を見せ，登場するクライエントやその家族等の気持ちを考えた上で，クライエントのストレングスを探し出し演習シートに書き出してもらっている。主にドキュメンタリー番組などを観させているが，一見すると生きづらさを抱え，否定的にしか捉えられないような映像も多く，学生達は，はじめのうちはなかなかストレングスを書き出すことができない。しかし，記述されたストレングスを翌週の授業内でフィードバックすることを毎週繰り返すことにより，徐々にスムーズにかつ多くのストレングスを挙げることができるようになる。さらに，ストレングスを挙げた後に，自分だったらどのような支援をしていきたいかといったことも考えさせている。２年生の前期ということもあり，十分な支援方法を考え付くまでには至らないが，ストレングス視点を意識した介入方法を見出して欲しいと意図し考えさせている。

ソーシャルワーク演習Ⅰでのこれらの学びを通じて，学生がストレングス視点を身につけたであろうと感覚的には感じることはできているが，その実際については明らかになっていないため，効果検証をしていくこととする。

Ⅲ.　調査方法

1.　調査対象

本学社会福祉学科においてソーシャルワーク演習Iを受講している2年生9クラスのうち，筆者らが担当するAクラスとBクラスの2クラス，合計32名の学生。

2.　調査期間

2015年4月8日（講義第1回目）と7月22日（講義第15回目）の2日間。

3.　調査方法

ソーシャルワーク演習Iの第1回目（前期初回）と第15回目（前期最終回）の授業中，授業の妨げにならないタイミングでそれぞれ15分間を使用し，2つの事例を読み，率直な感想とストレングスを自由に記述させた。

4.　調査内容

1つ目の事例は，就労継続支援B型事業所に通所しはじめたばかりの自閉症のAさんの事例で，Aさんは一見すると課題だらけで大変な方に思える。しかし，探していくと多くのストレングスを見つけることができる。環境のストレングスは少ないが，個人としてのストレングスをいかに探せるかを問えるような事例である。

2つ目の事例は，在宅での高齢者虐待が疑われる事例で，リスクアセスメントだけをしてしまうと否定的に捉えてしまいがちであるが，環境面でのストレングスが多く含まれている事例である。なお，この2つの事例は，筆者2名は現場経験があるため，実際の事例を加工し作成をした。

事例に対して，まずは率直な感想を聞き，その後ストレングスを挙げてもらった。率直な感想を大切にすることは，ソーシャルワーカーとして大切なことだと考えている。なぜならば，たとえば「大変そうな人だ」，「虐待はひどい」などの率直な気持ちを封じ込めてしまうことは，いずれソーシャルワーカーになったときに，バーンアウトにつながる恐れがあると考えられるからである。ソーシャルワーカーは，聖人君子ではない。当然ネガティブな感情も持っている。そのことを理解し受け入れつつも，その気持ちとは別にしてクライエントのストレングスを導き出せることはとても大切なことであると考えている。授業を通じて，率直な感想に変化はあるのかどうか，ストレングスの数との関係も含め考察したいと考え，率直な感想も聞くこととした。

〔事例 1〕

知的障害があり自閉症でもあるAさん（18 歳）は，特別支援学校卒業後，両親の熱心なサポートがあり，実習や面接を経て就労継続支援B型事業所に通うこととなった。しかし，初めての場所に戸惑っているようで落ち着きがない。スイッチの組み立て作業を依頼すると，拒否して水道の蛇口を開けては閉じてを繰り返してしまう。水遊びをやめるように伝えると，大きな声を出し支援員を振り切り走って逃げてしまう。また，タオルたたみ作業をお願いした時には，たたむことよりもほつれた糸が気になり，糸をハサミで切ることばかりに集中してしまい作業が進まない。さらに，作業中に大好きな電車の名前や駅名を大きな声で話してしまい，他の利用者より苦情が来ている。

問 1. 事例を読み，率直な感想を書いてください。
問 2. 本事例におけるストレングスを挙げてください。

〔事例 2〕

ある日，地域包括支援センターに近所の人から「虐待ではないか」と電話があった。その家は，母親 78 歳，長男 48 歳の二人世帯。長男は，母親が脳梗塞をわずらった 3 年前，介護のために 20 年勤務した会社を辞めたが，最近は朝，枕元に菓子パンとペットボトルをおいて夕方までパチンコをして帰らない。週末は，脳梗塞の影響による認知症の母親に対し大声で怒鳴ったり，何かが割れる音がしたりする。介護保険は，要介護 2 だが車いすをレンタルするのみで，担当のケアマネジャーがヘルパーなどのサービス導入の話をしたが，「必要ない」と拒否している。次男（42 歳）は，結婚し妻の両親と他県で同居しているが，子どもに障害があるため，年に数回実家に顔を出す程度である。

問 1. 事例を読み，率直な感想を書いてください。
問 2. 本事例におけるストレングスを挙げてください。

5. 分析方法

全ての自由記述内容を，1 つの内容に対し 1 つの文章に収まるように，意味を変えずに区切って箇条書きに書き出した。

問 1 の率直な感想については，明らかにプラスと捉えた感想のみ探し出し，文末に（+）の記号をつけその数を数えた。なお，解決方法の提示や提案，助言も多かったが，それらはプラス意見としては反映していない。

問 2 のストレングスについては，個人のストレングス（性質・性格，才能・技能，関心・願望など）と環境のストレングス（資産，人間に関係，近隣の地域資源など）に分け，その数を数えた。個人

のストレングスには文末に（個），環境のストレングスには（環）の印をつけた。これらの判断については，筆者２名で話し合って決定した。

そして，率直な感想におけるプラスの感想とストレングスの数の増減について，１回目と２回目の調査を比較し分析した。

6.　倫理的配慮

本調査を実施するにあたり，調査への協力は任意であり，協力の有無，また回答内容が学生への利害，成績評価に関係するようなことは一切ないこと，調査の分析は，全体を一括して行うため個人が特定されることもないことを文書と口頭にて説明をした。また，調査結果は，今後のソーシャルワーク演習Iの教授に役立てる他，紀要への発表を予定していることも説明をした。

Ⅲ.　結果

1.　事例１の率直な感想（1 回目）

32 名の学生に調査を実施し，１回目は全員が調査に応じてくれたが，２回目は欠席等により来られない学生もおり，結果として有効回答は 29 名分となった。

結果については，論文末の表１に示した。１回目の率直な感想としては，「他者から苦情が来ていることを何とかしなければならない」，「この事業所は合っていないのではないか」，「Aさんが戸惑わないように支援員が対応すべきだ」，「初めての場所に戸惑うのは仕方がない」，「Aさんがやりやすい作業を提供すべきではないか」，「自閉症の特徴が出ている」などの感想が目立っていた。

あきらかにプラスと思われる感想としては，「両親の熱心なサポートがある」といった内容が４個，その他「繰り返しの行動が見られたり，集中することが苦痛なのだとわかり，それらをうまくプラスにもっていけたらと感じた」といった感想が１個，合計５つのプラスの感想が出されていた。

2.　事例１の率直な感想（2 回目）

２回目では，「Aさんにとって，集中して作業を行うことが難しい環境である」，「支援員は，Aさんに合った仕事を見つけて欲しい」，「作業への工夫が必要」，「初めての場所で戸惑いがある」，「苦情に対して対応をすべきだ」などの感想が目立っていた。

プラスの感想としては，「両親の熱心なサポートがある」といった感想が７個，その他「集中力がある」3 個，「また自分に合う仕事を見つけて頑張って欲しい」，「特別支援学校を卒業できるくらいの障害レベルである」，「水遊びが楽しそう」，「元気」がそれぞれ１個ずつ，合計 14 個のプラスの感想が出されていた。

１回目と２回目の率直な感想を比較すると，その内容に大きな変化はないと言える。プラスの感

想についても5個から14個とやや増加したようにも思われるが，実際には，表1の網掛けをしてある3名の回答のように1回目より2回目のほうがプラスの感想が減少している学生もいるため，プラスの感想が増えたとは断定しにくい。

3.　事例2の率直な感想（1回目）

1回目の率直な感想としては，「長男への介護負担が大きい」，「次男も協力すべき」，「介護保険サービスを使うべき」，「虐待の可能性が高い」，「もっと地域や専門職からのアプローチが必要」などの感想が目立っていた。

プラスの感想としては，「長男が悪いのではなく，長男も助けてあげたい」，「長男はよく頑張った」などの長男を擁護する感想が4個挙げられた。

4.　事例2の率直な感想（2回目）

2回目の率直な感想としては，1回目同様「長男の介護負担が大きい」，「次男も協力すべき」，「介護保険サービスを使うべき」，「虐待の可能性が高い」の他，「パチンコでストレス解消をしている」，「なぜヘルパー利用を拒むのか」，「食べ物は置いていっている」などの感想が目立っていた。

プラスの感想としては　「長男は頑張っている」といった意味合いの感想が3個，「次男が年に数回顔を出している」といった感想が1個，合計4個挙げられた。

1回目と2回目の率直な感想を比較すると，その内容に大きな変化はないと言える。プラスの感想についても4個のままと変化が見られなかった。事例1に引き続き事例2でも，表1の網掛けをしてある3名の回答のように1回目より2回目のほうがプラスの感想が減少している学生もいた。

5.　事例1のストレングス（1回目）

1回目は，2年生になったばかりということも影響しているのか，どうやらストレングス自体が全く理解できていないようで，29名中13名が未記入という結果となった。記入がある学生についても，「他の利用者より苦情が来ている」，「初めての場所で落ち着きがない」などストレングスを課題や問題点と勘違いしたと思われる記載内容が目立った。また，「Aさんにあった作業をさせていく」，「初めてのことで戸惑うなら環境づくりから整えていく」など解決方法と勘違いしたと思われる記載もあった。それらを除くと，ストレングスを記入できた学生は7名だけであった。

内容としては，個人に関するストレングスとしては「集中することができる」，「好きなことは覚えられる」など7個挙がり，環境に関するストレングスとしては「両親の熱心なサポートがある」，「就労継続支援B型事業所に通っている」ということが5個挙げられていた。合計数として，ストレングスは12個しか挙げられていなかった。

6.　事例 1 のストレングス（2 回目）

2 回目は，授業 15 回目の実施だったこともあり，未記入者や勘違いの記入をする学生は皆無であり，全ての学生がストレングスを挙げることができた。

内容としては，個人に関するストレングスとしては「集中することができる」,「好きなことは覚えられる」,「実習や面接をクリアして事業所に通えるようになった」,「細かいところに目が行く」,「元気がある」,「趣味がある」など 73 個挙がり，環境に関するストレングスとしては「両親の熱心なサポートがある」,「就労継続支援B型事業所に通っている」,「さまざまな種類の作業がある」,「実習や面接をしてくれる場所があった」ということが 38 個挙げられていた。合計 111 個ものストレングスが挙げられた。

7.　事例 2 のストレングス（1 回目）

事例 2 においても事例 1 と同様，ストレングス自体が理解できていないようで，29 名中 14 名が未記入という結果となった。記入がある学生についても,「周りに相談できないこと」,「ヘルパーサービスを拒否していること」,「地域から孤立していること」などストレングスを課題や問題点と勘違いしたと思われる記載内容が目立った。また,「地域の人の力を借りる」,「ヘルパーサービスを利用し長男の介護負担を減らす」など解決方法と勘違いしたと思われる記載もあった。それらを除くと，ストレングスを記入できた学生は 4 名だけであった。

内容としては，個人に関するストレングスとしては「長男はまだ 48 歳なので働くことができる」の 1 個挙がり，環境に関するストレングスとしては「近所の人が心配している」,「介護保険が適用されている」,「担当のケアマネージャーとヘルパーがいる」など 9 個挙げられていた。合計数として，ストレングスは 10 個しか挙げられていなかった。

8.　事例 2 のストレングス（2 回目）

事例 2 においても事例 1 と同様，2 回目は，授業 15 回目の実施だったこともあり，未記入者や勘違いの記入をする学生は皆無となり，全ての学生がストレングスを挙げることができた。

内容としては，個人に関するストレングスとしては「枕元に菓子パンやペットボトルを置いている」,「親の介護のために会社を辞めた」,「会社には 20 年勤務していた」,「長男は健康体である」,「3 年間介護を続けた」,「介護放棄はしていない」など 62 個挙がり，環境に関するストレングスとしては「回数は少ないが次男の協力がある」,「担当ケアマネージャーがいる」,「車椅子をレンタルしている」,「近所で心配してくれる人がいる」など 57 個挙げられていた。合計 119 個ものストレングスが挙げられた。

Ⅳ．考察

1年次に2科目よりストレングスについての講義を受けていても，残念ながらほとんどの学生は，ストレングス視点を身につけていないということが明らかになった。つまり，講義で3～4回話を聞いただけでは，ストレングス視点は身につかないともいえる。そして，ソーシャルワーク演習を通じてトレーニングをすることで確実にストレングスを抽出することができるようになるということも明らかになった。

抽出されたストレングスの数は，事例1では12個から111個へ，事例2では10から119個となり，約10倍以上の伸びとなった。また，事例1でも2でも同様の伸び率であったことにより，確実にストレングス視点を身につけることができるようになったと言える。また，どのようなクライエントに対してもストレングスを抽出できる力量が上がったとも言えよう。このことは，さまざまな事例を元に，毎回ストレングスを考え記述させ，翌週にフィードバックを行うということを繰り返した成果により専門職としての視点が身についたと言える。

また，抽出されたストレングスの内容を見ると，個人と環境のどちらの視点のストレングスも抽出できている点にも着目すべきである。事例の特性もあり，事例1では個人のストレングスが圧倒的に多いが，事例2については予測通り，個人と環境のストレングスがほぼ同数ずつ抽出されバランスも良い。学生たちは，どちらの視点のストレングスも見出すことができるようになったことが明らかになった。

また，率直な感想には大きな変化がないことも着目すべき点である。このことはつまり，学生達は，ネガティブな率直な感想を持ちつつも，否定的な見解だけで終わることなくそこからストレングスを見いだせていることも明らかになった。このことは，将来ソーシャルワーカーになった際，バーンアウトを防ぐことにも通じると考えられ大切な視点である。

これらの結果が得られたことの背景には，ドキュメンタリー番組等を通じて実際に生きづらさを感じている方々の姿を見せ，多面的に理解しストレングスを抽出するというトレーニングを何度も繰り返すことにより得られたと考えられる。用意するドキュメンタリー番組も何十本も視聴しその中から厳選している。

今回の調査結果より，常に教員側がクライエントのストレングスを意識させることを意図することにより，何かしらのツール等を使用せずとも，半期間のソーシャルワーク演習の授業を通じて，学生たちは瞬時に，そして多面的にストレングスを抽出できるようになるということが明らかになった。

Ⅴ．おわりに

今回の研究では，2 人のクラス 29 名からのみの回答であるため，今後はさらに対象者数を拡大して検証していくことも必要であろう。また，介入群と非介入群の比較も行われていないため，今後はそのような研究も行い精査していきたい。

今回の研究において，演習の教授方法により，学生のストレングスに関する理解や事例を多角的にみる視点の醸成が可能になることがわかった。実習では，個別支援計画書等，利用者へのアセスメントやプランニングを実際に行う場面に遭遇する。演習により多くの知識や技術が身につくことで，多少なりとも実習への不安も減少すると考える。

しかし，保正[21]によると，2014 年現在でも演習を担当している複数の教員より，格差の存在について耳にする機会があると述べられている。指針が示されたものの，教育内容については各養成校に任されており，演習の講義内容や教授法・教材などについても共通基盤がないことが指摘されている。演習によりどのような学習効果が得られたかどうかの研究もまだまだ少ない。だが，教員間にバラつきが生じることは，学生にとって大きな不利益になると考えられる。20 名以下で 1 クラスであるため，教員数が増えたことにより，横の連携も重要になってくると考える。

社会福祉士という専門職養成の重要性を鑑み，新たに社会福祉士養成校協会より相談援助演習のガイドライン[22]も出された。社会福祉教育セミナー[23]では，社会福祉士演習・実習指導者講習会に多くの大学院生が就職目的で受講していることや，約 3 割は社会福祉分野以外の方が講習会を受講し教員になっていることへの警鐘も鳴らされ，「社会福祉士が社会福祉士を養成する」ことの大切さも打ち出されていた。

こうした演習の授業 1 つの習得をとっても，社会福祉士か否か，現場での実践経験があるか否かで差が出てくるのではないだろか。筆者らは現場での実践経験を踏まえた社会福祉士であり，社会福祉士による社会福祉士の教育は必須であると考えている。青年期の若い学生達は，実に多くのことを吸収していく。柔軟性あるうちの専門的教育は非常に重要だと感じる。確実に学生たちが，現場で必要な知識や技術を習得できたかどうか，今後は，ストレングス以外にも面接技術等習得にかんする効果検証を行う研究等を実施していきたい。

〈引用文献〉

1）厚生労働省，社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて，http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-yousei/index.html, 2015/10/20

2）各都道府県知事あて厚生省社会局長通知，社会福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容並びに介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容について，1988/2/12，社庶第 26 号

3）日本社会福祉教育学校連盟，ソーシャルワーク専門職のグローバル定義，http://www.jassw.jp/index.html　2015/10/15

4）ラップ，チャールズ・A/ゴスチャ，リチャード・J.著　田中英樹監訳：ストレングスモデル～精神障害者のためのケースマネジメント～，金剛出版，2008.

5）Dean H.Hepworth, Ronald H.Rooney & Jo Ann Larsen , BROOKS/COLE：DIRECT SOCIAL WORK PRACTICE THEORY AND SKILLS FIFTH ed，1997.

6）Bradford W.Sheafor/Charles R.Horejsi ALLYN AND BACON：SOCIAL WORK PRACTICE 8th ed，2007.

7）国立情報学研究所，CiNii Articles，http://ci.nii.ac.jp/，2015/4/1

8）保正正子：社会福祉士養成における演習教育研究の動向　～文献検討に基づく三期の特徴～，日本社会福祉教育学会誌，11：pp43-60，2014.

9）大和三重，荒川義子：実習前教育の教育過程　～援助技術演習による自己評価の試み～，日本社会福祉実践理論学会研究紀要，5：pp52-60, 1996.

片山弘紀：社会福祉援助技術演習における自己の振り返りの意味についての考察，関西福祉科学大学紀要，10：pp 235-239，2007.

金田喜弘：社会福祉援助技術演習における自己覚知を促す演習プログラム開発，佛教大学福祉教育開発センター紀要，4：pp35-52, 2007.

塚越康子：実践報告 社会福祉援助技術演習授業の一考察　～自己覚知を目指した体験型演習の試み～，学校法人昌賢学園論集，4：pp195-207, 2005.

黒岩晴子：社会福祉専門職の資質向上をめざして　～社会福祉学演習の試み～，佛教大学福祉教育開発センター，福祉教育開発センター紀要，3：pp1-13, 2006.

松山郁夫：自己覚知に関するソーシャルワーク演習の実際　～心理劇を活用した相談援助演習を通して～，佐賀大学文化教育学部研究論文集，15(2)：pp257-266, 2011.

松山郁夫：発達障害のある子どもに関するソーシャルワーク演習，佐賀大学教育実践研究，27：pp133-144, 2010.

10）合田盛人：社会福祉援助技術演習における地域福祉計画・地域福祉活動計画の実践，中部学院大学総合研究センター内，人間福祉学会誌，10(1)：pp83-91, 2010

正司明美，石原弥生：ソーシャルワーク演習教育と地方行政課題のコラボレーションモデル：高次脳機能障害支援事業「やまぐちリハビリの会」の運営を通して，山口県立大学学術情報，6：pp67-76, 2013.

11）大沢いずみ：社会福祉援助技術演習におけるグループ体験と評価の実施　～指導・介入の焦点化に向けて～，社会福祉実践理論研究，11,pp37-47, 2002.

松山郁夫：グループディスカッションによる実践モデルの理解を促すソーシャルワーク演習　～危機介入・行動変容・エンパワメントに関するアプローチを通して～，佐賀大学教育実践研究，29：pp177-186, 2013.

12）横山正博，正司明美，藤田久美，山本佳代子：社会福祉援助技術演習における面接技法の評価，山口県立

大学社会福祉学部紀要，10：pp37-51, 2004.
13）木村多佳子，楳原直美：社会福祉士養成教育における演習プログラム開発　～『利用者の自己決定の尊重』を教えるプログラム～，大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要，8：pp71-89, 2009.
14）鶴宏史：非言語的コミュニケーションの学習　～他者の観察を通して何を学ぶのか～，神戸親和女子大学教育専攻科紀要，9：pp69-82, 2005.
15）片岡靖子，岡崎利治：社会福祉援助技術演習におけるデス・エデュケーションの試み　～社会福祉援助技術観形成過程における諸課題～，久留米大学文学部紀要，社会福祉学科編，8：pp1-11, 2008.
16）水野良也：プレイバック・シアターを導入した社会福祉専門職者教育の試行的実践，琉球大学法文学部人間科学科紀要，21：pp117-141, 2008.
17）山口真里：ソーシャルワークにおけるストレングス教育の意義　～「相談援助」系科目担当教員へのヒアリングをつうじて～，広島国際大学医療福祉学科紀要，8：pp79-91, 2012
18）太田義弘，野澤正子，中村佐織，阪口春彦，長澤真由子，西梅幸治，山口真里：ソーシャルワーク実践へのエコスキャナー開発の研究　～支援ツールを用いたスキル訓練の方法～，龍谷大学国際社会文化研究所紀要，7：pp105-141, 2005.
19）前掲 17
20）対人援助実践研究会HEART：77 のワークで学ぶ対人援助ワークブック，KUMI，2008，24-27.
21）前掲 8
22）日本社会福祉士養成校協会，相談援助演習ガイドライン，http://www.jascsw.jp/jisshuenshu_education.html　2015/11/1
23）2015/10/31 実施　社会福祉教育セミナー　第 2 分科会「ソーシャルワーク実践と社会福祉教育　～実習演習教育を中心に～」の中での発言内容。

〈参考文献〉

山口真里：ソーシャルワークにおけるストレングスの特性　～類似概念との比較をつうじて～，広島国際大学医療福祉学科紀要，5：pp65-78，2009.
西梅幸治：社会福祉士養成におけるソーシャルワーク演習教育　～エンパワメント実践の思考枠組みとの関連から～，ソーシャルワーク学会誌，27：pp17-29, 2013.

表１．回答結果

No	事例１の率直な感想（1 回目）	数	事例１の率直な感想（2 回目）	数	事例１のストレングス（1 回目）	個人	環境	合計	事例１のストレングス（2 回目）	個人	環境	合計
1	・両親の熱心なサポートがあるのは良い。（+） ・初めての場所だったため不安がたくさんあった。 ・やめるように注意されると怖くなってしまい大声を出すのではないか。 ・1つのことに集中できるのなら、一気に教えるのではなくできることから教えたらいい。	1	・両親の熱心なサポートがあったため、就労継続支援B型に通うことができた。（+） ・誰も知らない場所に慣れていないため、戸惑い落ち着くことができない。 ・１つのことに集中できないため、他の事に興味を持ってしまう。 ・支援員の言い方にも問題があったのかもしれない。	1	未記入	0	0	0	・両親の熱心なサポートがある。（環） ・実習や面接をしっかりやったから、就労継続支援B型に通うことができた。（個）	1	1	2
2	・作業に対する集中力があるとはいえない状況だと思う。 ・このままでは事業所にはいづらいのではないかと思う。	0	・Aさんは本当に自分のやりたいことができているのかと疑問に感じた。 ・実習や面接をクリアできる能力があるのに、作業に集中できないということは周りの環境面に問題があるのではないかと思った。 ・Aさんに向いた作業を探してあげる必要があると思った。	0	・ほつれた糸を切る際は、集中している。（個）	1	0	1	・両親の熱心なサポートがある。（環） ・実習や面接をクリアできる能力がある。（個） ・１つのことに対する集中力がある。（個）	2	1	3
3	・初めての場所には、誰しも戸惑ってしまうのは当たり前のこと。 ・自分の楽しいことややりたいことを優先してしまうのも当たり前のこと。 ・初めは一人で行かせず親もついていくべきだったと思う。	0	・仕方ない。 ・また自分に合う仕事探しを頑張ってもらいたい。（+）	1	未記入	0	0	0	・特別支援学校を卒業したこと。（個） ・両親の熱心なサポート。（環）	1	1	2
4	・Aさんは、1つのことが気になってしまうと、他の事を考えられなくなってしまうのではないか。 ・Aさんの意見や気持ちをいろいろ注意するのではなく、聞いてみるのが先ではないか。 ・他の利用者が気になってしまうのではないか。	0	・Aさんにとって作業を行う場所には、たくさんのものがあり、集中して1つのことを作業することが難しい環境だと思った。 ・初めての場所に戸惑っていると書いてあるが、そのときに安心して作業ができるような支援を行うと少しはAさんの行動が変化したと思う。	0	・就労継続支援B型事業所に通っている。（環） ・集中することはできる。（個） ・大好きなことは覚えることができる。（個） ・両親の熱心なサポートがある。（環）	2	2	4	・両親が熱心なサポートをしている。（環） ・Aさんは就労支援に通っている。（環） ・作業所に通うことができる。（個） ・拒否など自分の意思があり意見を言える。（個） ・Aさんの好きなものがわかっている。（環）	2	3	5
5	・他の利用者から苦情を受けているため、なんらかの対応はすべきだと思った。 ・せっかく社会に出て働けるようになったので、Aさんがどうしたら他の利用者に迷惑をかけないか事業所の人たちと考えていくのが一番いいと思った。	0	・知的障害を伴っている自閉症の人を注意したり、言うとおりにさせることは、とても大変なことだと思う。 ・他の利用者さんから苦情が来ていることで、事業所の人も配慮が難しいだろうと感じた。	0	未記入	0	0	0	・熱心にサポートしてくれる両親。（環） ・気になったことは最後までやり遂げる力、集中力。（個）	1	1	2
6	・繰り返しの行動が見られたり、集中することが苦痛なのだとわかり、それらをうまくプラスにもっていけたらと感じた。（+）	1	・特別支援学校を卒業できるくらいの障害レベルである。（+） ・両親が熱心であるため、子どもに対する期待が伺える。（+） ・気になることは集中することができ、集中力はあると思う。（+）	3	・ほつれた糸を取ることができるのであれば、そういう作業を遊び感覚でやっていただく。（個）	1	0	1	・両親が熱心であること。（環） ・集中することができる。（個） ・電車の名前、駅名などの記憶力がすばらしい。（個） ・実習や面接を経て事業所に通うことができている。（個）	3	1	4

7	･Aさんにとって両親からのサポートがすごく安定したものであったのだと思った。(+) ・作業の拒否が何度かあり、大きな声まで出させてしまって相当なパニック状態だったのかなと思うと苦しく思う。 ･まずは、他の利用者に合わせることではなくて、Aさん個人がどうすれば静かに冷静に作業に集中できるのか考えるべきだと思った。	1	･Aさんのこだわりが強いと感じた。 ・支援員の人がもっとAさんの性格を生かした仕事を見つけてほしいと思う。 ･また、面接時にこだわりがあるかないか、あるならどんなこだわりか、どんなことが苦手か聞かなかったのかと思った。 ・事業所に慣れていないのでは(?)と考えているのに、Aさんを個室で支援したり、仕事をさせてあげたりの方法はとらないのかなと思った。 ･実習の時に、もっと調査しなかったのかが気になった。	0	未記入	0	0	0	・何度もパニックになる状態になりながらも、事業所へ通っている。(個) ・両親からのサポートがある。(環) ・電車が大好きであること(趣味がある)。(個)	2	1	3
8	・蛇口の開け閉めを繰り返したり、大きな声を出したり、ほつれた糸が気になったり、大声で話してしまう点から、自閉症の特徴が多く出ていると思った。 ・最初は作業を依頼することより、その場所になれることから始めたほうが良いと思った。	0	・私はこの事例を読み、就労支援事業所までの両親のサポートが厚いのに、事業所に入ってからのキーパーソンがいない点に気づいた。 ・戸惑っていて、最初はまだできない作業があるはずなので、それを見極めるべきだと感じた。	0	・水道の蛇口を開けては閉じてを繰り返すことから、スイッチの組立作業を繰り返すことは、慣れたらできるようになると思われることが唯一のストレングス。(個)	1	0	1	・両親の熱心なサポートがある。(環) ・さまざまな種類の作業がある。(環) ・それをお願いされる点。(個) ・慣れれば同じ作業に集中できる。(個)	2	2	4
9	・ほつれた糸が気になることだったり、細かいところに目が行くのであれば、細かくて見落としてしまいがちなところを直すようにお願いすればよいと思った。	0	・両親の熱心なサポートがあり良いと思った。(+) ･しかし、はじめ他の場所で戸惑うことがないように、サポートできたらよかったと思った。	1	未記入	0	0	0	・両親の熱心なサポート。(環) ・事業所の人が失敗してもまた作業をお願いしてくれる。(環) ・実習や面接をしてくれる場所があった。(環) ・努力して就労継続支援B型事業所に通うことができた。(個)	1	3	4
10	・両親の熱心なサポートがあったから事業所に通うことができるようになった。(+) ・頼んだことができないのは仕方がないと思う。 ・サポートがないとできないから誰かサポートをつけるなど工夫が必要。	1	・落ち着きがないところを直し、安心できる環境になってから作業をしてもらえれば良いと思った。 ・安心できれば、時間はかかると思うが、スムーズに作業が進められるようになるだろうし、他の利用者ともうまく付き合えるようになると思った。	0	未記入	0	0	0	・両親が熱心なところ。(環) ・それに答えようと実習や面接を受けたAさんの行動力。(個)	1	1	2
11	･Aさんは、両親が近くにいないということ、初めての場所で作業していくことに少しパニックを起こしているのだと感じた。 ・事業所自体が、Aさんにあっていないのではないかと思った。	0	･Aさんは両親の熱心なサポートにより事業所に通うこととなった。(+) ・ひとりでやらなくてはならないことや、何々をしてほしいと頼まれることが、苦手なのではないかと感じた。	1	・初めての場所。 ・依頼をされる。 (何かと勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・両親が熱心にサポートしてくれる。(環) ・細かいところに気がつく。(個)	1	1	2
12	･Aさんに対して戸惑ってしまうかもしれないということが率直な感想。 ・決して差別をしているわけではないが、どう関わっていけばよいのか実際の現場では迷う。	0	･Aさんは初めての場所で、なれない作業をすることに戸惑っているような気がする。 ・そのような中、少しでも自分を落ち着けようと水道の蛇口の開け閉めをしたり、大きな声で話したのだと思った。 ・そのため、今いる場所ではどんなルールを守らなければいけないのかを時間をかけてでも教えていく必要があると考えた。	0	･Aさんは初めての場所に不安を感じていることから、どのように慣れさせていくのかも重要だと思う。(課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・両親の熱心なサポートがある。(環) ・興味のあることには集中力がある。(個) ・実習や面接は経験がある。(個)	2	1	3
13	・知的障害と自閉症を同時に持ち合わせている人が、事業所で働くことは難しい。 ･Aさんには、悪いが、他の利用者に迷惑がかかるようでは、ここで働き続けることは不可能。 ･Aさんにあった仕事場をもう一度検討したほうが良い。	0	・自閉症があると、両親のサポートがあってもしっかり働くことが難しい。 ・支援員とも相談し、Aさんにあった仕事が他にあるならそちらをやらせてみるのも良いと思う。	0	未記入	0	0	0	・戸惑いはあるが、事業所に通おうという気持ちはある。(個) ・細かい部分を気にかけることができる。(個)	2	0	2

14	・Aさんの戸惑う気持ちの整理を解決しない限り、作業に集中することや他の利用者さんの気持ちを考えることができないのではないか。	0	・初めての場所は、誰でも不安なため、落ち着けないのは仕方がないと思う。 ・どのように点に留意する必要があるか、面接や実習で支援員の人は気づくことができなかったのか、実習の段階で発見することができれば対応できたのではないかと思った。	0	未記入	0	0	0	・両親の熱心なサポート。（環） ・細かいところに目が行く。（個） ・気になったことは集中が続く。（個）	2	1	3
15	・初めての場所により落ち着きがない上に、身近な親しい人はいなかったのか。身近な人の写真などがあれば、多少落ち着けるのではないか。	0	・Aさんが初めての場所により、どうしたら良いかわからないことを、もう少し考慮すべきだと思う。 ・また、そのせいで落ち着きがなく他の利用者から苦情が来ているのであれば、その人たちを含め一度話し合いや個別に面談をしたらどうか。	0	・初めての場所に戸惑っており、自身のしたいようにできないもどかしさ。 （課題と勘違いしたと思われる記載）	0	0	0	・両親の熱心なサポート。（環） ・細かい部分を見れる。（個） ・手を抜かず一生懸命作業できる。（個）	2	1	3
16	・指示だけでなく一緒に作業をするなどのサポートをしたら良いのではないか。	0	・私も自閉症の人にかかわったことがあるが、なかなか難しい。自閉症の人への理解が必要だ。	0	・両親の熱心なサポート。（環） ・好きなものを覚える力がある。（個）	1	1	2	・両親のサポート。（環） ・動き回る元気がある。（個） ・特定のことに集中することは可能。（個） ・働ける場を見つけている。（環）	2	2	4
17	・支援員が初めての場所でも戸惑わないように、最初は作業するよりその場になれるようにしたり、Aさんがやりやすい作業をしてもらったりしたほうが良いと思った。	0	・支援員がもっと何かできることがあるのではないかと思った。場所に慣れるようにするとか。	0	未記入	0	0	0	・何かに集中することができる。（個） ・事業所に通っている。（環） ・両親が熱心。（環）	2	1	3
18	・両親が熱心にサポートすることは良いことだと思う。（+） ・しかし、Aさんがやりたいことができているのか、疑問に思う。 ・他の利用者さんから苦情もきているので新しい事業所を探したほうが良いと思う。	1	・Aさんがかわいそうだと思った。 ・やりたいことをやらせてあげたいと思うし、Aさんにあった就労先を見つけて欲しいと思った。	0	・両親。（環） ・就労継続支援B型事業所。（個）	1	1	2	・特別支援学校を卒業した。（個） ・サポートを受けながらも実習や面接をしてきた。（個） ・就労継続支援B型事業所に通っている。（環） ・ひとつのことに集中できる。（個） ・好きなものがある。（個） ・電車の名前や駅名を覚えられる。（個） ・たくさんのことに興味を持てる。	5	1	6
19	・Aさんはまだ初めての場所で緊張しているだけかもしれないから、少し慣れるまで作業をしている間は隣に安心できる人がいたほうが良いと思った。	0	・初めての場所なので落ち着きがないのは仕方がない。	0	・Aさんが就労継続支援B型事業所に通う。（環）	0	1	1	・両親の熱心なサポートがある。（環） ・実習や面接をこなせた。（個） ・ほつれた糸を切るなど几帳面な一面がある。（個） ・電車や駅など好きなものがある。（個） ・特別支援学校を卒業した。（個） ・大きな声を出して走る元気がある。（個）	5	1	6
20	・就労継続支援B型事業所に通うことで、両親やAさんの周りの人が安心しきっている。その後のサポートも大切だと思う。 ・初めての場所で戸惑っているならば落ち着かせるべき。 ・まず、仕事をさせるよりその場にとどまる（?）ということが彼の大きな一歩になると思った。	0	・就職することを優先していてもっと他にしなければならないことがあったのではないか、職員の人の理解がない。	0	未記入	0	0	0	・両親が熱心にサポートしてくれた。（環） ・事業所に通うことになった。（環）	0	2	2

21	・事業所を辞めたりする必要はないと思う。 ・実習や面接を経て就職している以上、事業所でもう少しAさんに目を向け何が原因になり暴れるのかを考えると良いと思った。	0	・両親がとてもよくサポートしている。良いことだと思う。(+) ・集中力がある人だと思う。(+)	2	・他の利用者より苦情が来ている。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・特別支援学校を卒業できた。(個) ・両親がしっかりサポートしている。(環) ・自分のしたいこと戸惑いを伝えたいという思いがある。(個) ・ほつれた糸など細かいところまで考えが行き届く。(個) ・集中力がある。(個) ・大好きな電車がある。(個) ・人を傷つけたりはしていない。(個)	6	1	7
22	・慣れない場所に戸惑い、軽くパニックを起こしているように思った。 ・一人で落ち着ける空間を用意してあげると良いと思う。	0	・新しい環境になれず戸惑っていると思った。注意されてパニックになる。	0	・作業をお願いするのではなく、Aさんが興味を持ったことをやってもらうようにする。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・両親の熱心なサポートがある。(環) ・好きなことに対しての記憶力が良い。(個) ・細かい作業に集中している。(個) ・就労継続支援B型事業所に通っている。(環) ・走って逃げる体力がある。(個)	3	2	5
23	・依頼された作業を拒否したり、蛇口を開けて水遊びをしたりと非常に大変なことだと思う。 ・また、大きな声で話してしまい、他の利用者から苦情が来ていることも困ったものだと思う。	0	・わがまま。 ・支援員が大変。 ・両親が熱心にサポートしているのですばらしい。(+) ・水遊びが楽しそう。(+) ・元気。(+)	3	・水遊びをやめなさいと注意すると大きな声を出す。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・就労継続支援B型事業所に通っている。(環) ・熱心にサポートしてくれる両親がいる。(環) ・手先が器用。(個) ・自分の意思を強く主張できる。(個) ・集中することができる。(個) ・大きな声を出せる。(個) ・好きなものがある(電車、駅)。(個) ・元気。(個)	6	2	8
24	・支援員がもっと優しく接してあげるべきだと思う。 ・戸惑って落ち着きがないとわかっているのなら、話しかけたりコミュニケーションを図ろうとしたほうが良いと思った。 ・初めて来ていきなりスイッチの組立作業を依頼するのではなく、支援員がやり方を教えるべきだと思った。	0	・Aさんは、事業所という初めての場所だから不安がいっぱいでこのような行動しているのだと思った。 ・作業を依頼するのではなく、教えながら一緒に取り組んだらうまくできるのではないかと思った。	0	未記入	0	0	0	・電車が大好き。(個) ・話ができる。(個) ・就労継続支援B型事業所に通っている。(環) ・1つのことに集中できる。(個)	3	1	4
25	・いけないことだけで縛られている状態で、本人の気苦労などたまっていると思う。 ・そうしたストレスを解消していくことが大切だと思った。	0	・両親の熱心なサポートがあることが良かった。(+) ・初めての場所に慣れるような工夫や他のことが気にならないような工夫が必要だと思った。 ・他の利用者への配慮が必要だと思う。	1	未記入	0	0	0	・Aさんは慣れない場所にもかかわらず通い続けている。(個) ・作業は進まなくても少しの間でも作業している。(個) ・両親の熱心なサポートがある。(環)	2	1	3
26	・実習で訪れていたが、職員の方もどの程度のことができ、どのような環境なら無理なく働けるのか把握できていないのだと思った。	0	・就労継続支援B型事業所に通えるが、初めての場所、仕事に対して慣れていないので就労前の支援が何かできなかったのかと思う。 ・作業ができないわけではないので、作業に対する興味をどのようにしたらもてるのか考えていく必要がある。	0	・知的障害 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・両親のサポートがある。(環) ・就労ができる。(個) ・気になることへの集中ができる。(個) ・作業ができる。(個) ・電車や駅名を覚えられる。(個) ・好きなことがある。(個)	5	1	6
27	・落ち着きがないことと慣れない事業所での戸惑いにより、他の利用者へ迷惑をかけていることがわかる。 ・誰かがサポートについてあげたり、もう少し簡易な作業への切り替えが可能なのであればそうしたほうがいい思う。	0	・Aさんが環境の変化に追いつくことができず、落ち着きがない。 ・しかし、1つの物事への集中力がすごい。(+) ・環境へ慣れさせるための時間が、本人にとって大切だと感じた。 ・環境をしっかり整えるべき。丁寧に説明をする。	1	・初めての場所に戸惑い落ち着きがない。 ・大きな声を出す。 ・依頼したことを拒否し違うことに走る。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・両親の熱心なサポートがある。(環) ・事業所に通うことが可能。(環) ・集中力がある。(個) ・好きなものがある。(個)	2	2	4

28	･Aさんは、おそらく初めての場所で精神的にも若干不安定な部分があると思った。 ・水遊びは、心を落ち着けるための行動だと思われる。 ・タオルをたたむことよりも、ほつれた糸をはさみで切ることばかりに集中するのであれば、Aさんにはほつれた糸をはさみで切る仕事を一任することが望ましいと思った。	0	･Aさんにはタオルたたみ作業というよりも、糸をはさみで切る作業を行わせたほうが良いのではないかと思った。 ･Aさんが、事業所に慣れるよう工夫をすべきではないか。	0	未記入	0	0	0	・事業所に通うことができる。（環） ・拒否することができる。（個） ・大きな声で話せる。（個） ・糸をはさみで切ることができる。（個） ・大好きな電車の名前や駅名を話すことができる。（個）	4	1	5
29	・両親が熱心にサポートしすぎたために、Aさんが本当に就労継続支援B型事業所に適しているのかわからない。 ・戸惑いがあったりしたら、個別に作業を行わせたりするなどの、配慮をしたり、他の利用者への配慮も大切だと思った。 ･Aさんがしやすいような作業をしていくようにするのが大切だと思った。	0	・初めての場所で戸惑っているのに、さまざまな依頼をしすぎていると思った。 ・他の利用者は、このようなことが起こることを想定していなかったのか。周囲がもう少し理解することが必要ではないか。	0	･Aさんにあった作業をさせていく。 ・初めてのことで戸惑うなら環境づくりから整えていく。 （解決方法と勘違いしたと思われる記載）	0	0	0	・大好きな電車、駅名を覚えている。（個） ・両親が熱心にサポートしてくれる。（環） ・好奇心旺盛なところがある。（個） ・何かに対してのこだわりを強くもっている。（個）	3	1	4
合計		5		14		7	5	12		73	38	111

No	事例2の率直な感想（1 回目）		事例2の率直な感想（2 回目）		事例2のストレングス（1 回目）	個人	環境	合計	事例2のストレングス（2 回目）	個人	環境	合計
1	・次男ももっと協力すべき。 ･「必要ない」と拒否していても近所の人から虐待だと思われているなら、しっかり調査をしてその長男のことも助ける必要がある。 ・母親だけがかわいそうだとは思わないで、長男が辛い思いをしているなら、そのサポートも必要だと思う。	0	・母親の世話をまともにせず、パチンコばかりやっていて、家には帰らないのは今まで育ててもらった母親にする態度ではない。 ・認知症の母親に大声で怒鳴ったり、ものを投げたりしていて、近所の人から虐待だといわれてもおかしくない。 ・ヘルパーなどのサービスを勧められたならお願いすれば良いと思った。それを断るならしっかりお世話をすべき。	0	未記入	0	0	0	・枕元に菓子パンやペットボトルを置いているから、一応気にしている。（個） ・親のために会社を辞め介護をしようとした。（個）	2	0	2
2	・このまま長男と一緒に暮らしていたら、母親が精神的、肉体的に辛いのではないかと思った。 ・しかし、次男は妻の両親と同居しているし、子どもに障害があるため、一緒に暮らしてサポートすることは難しいと思った。	0	･なんとか母親にヘルパーやデイサービスなどのサービスを使ってもらい、家の外で過ごすことが必要なのではないかと思った。 ・そうすれば、長男が感じているストレスを軽減したり、再び働いたりすることができると思うし、母親も健康な生活が送れるのではないかと思った。	0	・近所の人から電話があったので、地域の力を利用できるかもしれない。 （解決方法と勘違いしたと思われる記載）	0	0	0	・回数は少ないが、次男の協力がある。（環） ・まったくほったらかしにしてるわけではない。（個） ・母親のために仕事を辞めるやさしさと行動力がある。（個） ・週末はパチンコに行かず、家にいる。（個） ・夜まで遊んでいるわけではない。（個）	4	1	5
3	・実際、自分もこのような状況になったら、どうしたらよいかわからないからなんともいえない。 ・長男は知識がないからどのように接したらよいかわからず逃げ出してしまうのだと思う。 ・長男が悪いではなく、長男のことも助けてあげたいと思う。（+）	1	・嫌気がさすのはわかるが、育ててくれた人に対する態度ではない。 ・担当ケアマネージャーの話に、耳を傾けて必要なものは取り入れる。 ・もしお金に問題があるのならパチンコをやめる。 ・自分の身を削って子育てをしてくれた母親に対する親孝行は必要だと思う。 ・次男ももっと協力的になってもらいたい。 ・年に数回しか顔を出さないのを、子どもの障害のせいにしてほしくない。	0	未記入	0	0	0	・20 年勤務した。（個） ・担当ケアマネージャーの存在。（環）	1	1	2

4	・長男とソーシャルワーカーが相談すべきだと思う。 ・拒否しているのなら、次男から理解してもらい、長男に伝えることも考えられる。 ・長男に介護保険のことを丁寧に説明したほうが良いと思った。 ・担当の人たちで情報を共有する。	0	・長男は母親を介護するために、会社を辞めてまで介護をしていたが、孤立していたのだと思う。 ・そのため、悩みを周りに共有することができず、一人で母親を支えている。 ・だからストレスがたまり、パチンコなど発散しにいったのだと思う。これは、長男のせいではなく環境が問題だと思う。	0	・長男が介護できる状態。(個) ・近所の人が心配している。(環) ・介護保険が適用される(要介護2)。(環) ・担当ケアマネージャーとヘルパーがいる。(環) ・次男が年に数回実家に顔を出せる。(環)	1	4	5	・次男がいる。(環) ・担当ケアマネージャーがいる。(環) ・長男とケアマネージャーで話しをしている。(環) ・近所の人が心配している。(環) ・食事など生活ができている。(個) ・車椅子はレンタルしている。(環) ・長男は以前会社に20年勤務。(個)	2	5	7
5	・「虐待ではないか」と電話があった以上、何もないというのは考えにくいから調査をすべき。 ・長男だけに任せているのは、負担だと思うから、次男も協力すべき。	0	・いくらなんでも枕元に菓子パンとペットボトルを置いていくことは、ひどすぎるのではないかと思う。 ・そして、自分が辛かったら、ケアマネージャーやヘルパーに力を借りても良いと思った。 ・虐待などひどいことをしているけど、長男も一人で母親の介護をして、大変だと思った。	0	未記入	0	0	0	・20年勤務できる力。(個) ・必要ないという発言で、自分が介護していくという意思。(個) ・次男の存在。(環)	2	1	3
6	・いろいろな状況が重なっていると感じた。 ・ただ長男へのアプローチをもっと考えれば、施設に入居させるなどの方法はあると思う。	0	・長男が48歳という歳で働かずパチンコをしていることに違和感があるが、おそらく耐え切れなくなってしまうのだと思う。一人だけの介護は辛い。 ・また、パンとペットボトルだけは置いておく優しさというか最低限はなんとかなっている。(+)	1	・長男はまだ48歳ということで働くことができるので、母親を一人にさせることのない手段をうまく使い、次男にも協力してもらう。(解決方法と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・母親は一人ではない。(環) ・長男が会社を辞めてまで母の介護をやろうとした。(個) ・菓子パンとペットボトルは置いてある。(個) ・介護保険をまったく使っていないわけではない。(環)	2	2	4
7	・地域からのサポートが、必要な家庭なのだと思った。 ・もし長男が必要ないと言い張るなら、別の方法で介入していったほうが良いのではないかと思った。 ・まずは、長男の精神状態を確認すべき。そこから母の介護の話を進めてもいいのではないかと思った。	0	・長男への負担が大きいと思った。確かに認知症を持つ母親への支援も必要だが、もっと長男に対するサポートがあってもいいと思う。 ・必要ないという言葉の中には、頼りたくないという気持ちも含まれていそう。 ・近所からのサポートはないのかと思う。	0	未記入	0	0	0	・少なからず菓子パンと飲み物を置いている。(個) ・車椅子をレンタルしている。(環) ・母への気遣いがある。(個) ・同居している。(環) ・年に数回だが、弟が来る。(環) ・仕事を辞めて介護を始めた。(個)	3	3	6
8	・菓子パンとペットボトルを置いているからといって、母親の介護をしているとは限らない。長男の介護負担が重いことは確か。 ・しかし、サービスを拒否し、怒鳴ったりすることは、いずれ虐待につながりやすいと思うので、早急にサービスを導入させるべき。 ・次男ももう少し対策を考えるのに参加すべき。	0	・長男は一人でよくがんばったと感じた。(+) ・しかし、もう少し早く介護保険の仕組みを知っていれば楽に生活ができ、パチンコにも走らなかったと思う。 ・なぜヘルパーなどのサービス導入を拒否するのかソーシャルワーカーの腕の見せ所だと思う。 ・次男の協力は、やはり必要でもう少し関与すべきだと思う。	1	・近所の人から支援センターに連絡があり、ケアマネとヘルパーがクライエントとつながっていること。(環)	0	1	1	・近所の住民が虐待ではないかと疑うことができた点。(環) ・長男は介護のために20年間勤務した仕事を辞めた。(個) ・枕元にパンとペットボトルを用意している。(個) ・介護保険が適用されている。(環) ・次男は完全に関与していないわけではない。(環)	2	3	5
9	・次男の子どもに障害があるので、次男の妻は子どものめんどうを見なくてはならない。 ・長男も介護のことがわからない上、会社を辞めてしまいお金の面での心配もあるから、サービスに頼らないのではと思った。	0	・長男は介護に疲れてしまったのかと思った。 ・しかし、菓子パンとペットボトルだけを置いてパチンコにでかけるのは、自分のお金だとしてもいけないと思った。 ・長男はまだ、ヘルパーなどのサービスを良くわかっていないと思ったので、何回でも担当のケアマネージャーが説明に来る必要がある。	0	未記入	0	0	0	・近所で心配してくれる人がいる。(環) ・母のために20年勤務していた会社を辞めた。(個) ・一応、食べるものを置いている。(個) ・車椅子のレンタルをしている。(環)	2	2	4

10	・ヘルパーの必要がないと拒否したのは、金銭的な問題が理由ではないかと思う。 ・さらに、長男は、母親が認知症というのを認めたくないから怒鳴ったりしてしまうのだと思う。 ・長男だから次男に助けを求められないと見栄を張っているとも思える。	0	・虐待とも感じ取れるし、長男が母親離れできていなくて、母親のめんどうは自分が診ると思っているとも感じられる。 ・しかし、会社を辞めパチンコをして帰るなど、金銭的に大丈夫なのか心配。 ・ストレスで大声で怒鳴ったり、物に当たったりしてしまったのかなと思う。 ・責任感が強い人ではと感じた。(+)	1	未記入	0	0	0	・長男が会社を辞めてまで母親の面倒を見ようと思った気持ち。(個) ・菓子パンとペットボトルが置いてある。(個)	2	2	4
11	・ひどい話しだと思った。 ・次男が数回しか帰っていないことを考えると、長男には大きなストレスがある。 ・「必要ない」といわれてももっと地域が踏み込むべきだと思う。	0	・20年もの間勤務してきた会社を辞め、一人で母の介護をしてきたが、認知症である母を看ることに対してストレスを感じているのではないかと思った。 ・また、ヘルパーなど必要ないといっているのも何か理由があるのではないかと思った。	0	・一人で母親を介護すること。 ・周りに相談できないこと。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・一人で母を介護していること。(個) ・次男は他県で暮らしているが、年に数回は顔を出してくれる。(環) ・完全に母を離して介護していないのではなく、しっかり母の手が届くところにパンと飲み物を置いている。(個)	2	1	3
12	・虐待があるかないかは別として、母親と長男の2人にとってあまりよくない状態ではある。 ・長男も母のために20年働いてきた会社をやめたくらいなのだから、愛情がないわけではないように思う。(+)	1	・長男一人の手で介護するのは、想像以上に大変だと感じた。 ・介護のために四六時中母親とつきっきりで息抜きができていない。 ・ヘルパーのサービス導入をどうして拒むのか疑問に思った。	0	未記入	0	0	0	・回数は少ないが、次男の協力がある。(環) ・まったくほったらかしにしてるわけではない。(個) ・20年働き続けた会社を辞めたこと。(個) ・介護保険は受けている。(環) ・長男が身体上は健康である。(個)	3	2	5
13	・サービス導入の段階からもう一度考えたほうが良いと思う。 ・まずはヘルパーなどサービスを利用してもらうよう説得すべき。 ・虐待かどうかも確認する必要がある。それでも問題が解決しない場合は、専門分野の人員を増やし、再度検討すべき。	0	・長男はかなりストレスがたまっていると思う。 ・20年間仕事を続けてきた人が、母親に強く当たってしまうのだから、よほどの不満があるのかもしれない。	0	未記入	0	0	0	・ケアマネージャーや次男など母親と長男を支援することができる人がいる。(環)	1	0	1
14	・長男は自分でなんとかしたい気持ちはあるが、何をどうしてよいのかわからないのだと思う。 ・しかし、虐待の可能性が高い。 ・頼れる人もいないのだと思う。次男に長男は相談することができなかったのだろうか。	0	・食べ物が菓子パンとペットボトルというのは、大人にとってお腹がすいたことだろうと思った。食べ物を置いていかないよりは、ましだと思うが少ないと感じた。 ・自分の時間が欲しいのなら、ヘルパーさんなどの話を思い出して頼むことはなかったのかなと思った。	0	未記入	0	0	0	・介護のために働き続けた仕事を辞めて介護する決意。(個) ・次男とは疎遠にしているわけでなく、顔は出してくれる。(環) ・ヘルパーの助けは求めずがんばろうとしたこと。(個) ・餓死しないように、水分と食料は少量であるが残していったこと。(個)	3	1	4
15	・介護によるストレスにより、無意識に母親を殺そうとしているのではないだろうか。 ・疲れているときに周囲から何を言われても聞く耳がもてないのではないかと考えた。	0	・虐待があることを次男は知っていたのだろうか。 ・ケアマネージャーがサービスを勧めてくれたにもかかわらず拒否したということは、もっとケアマネージャーがその家族を見るべきではないか。	0	・介護のために会社を辞めてしまい、お金がなかなか稼げることができず、不安やイライラがたまってしまった。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・近所から包括に電話があった。(環) ・長男は介護のために20年勤務した会社を辞めた。(個) ・菓子パンとペットボトルが用意されている。(個) ・介護保険を利用しており、担当のケアマネージャーがいる。(環) ・次男が年に数回実家に顔を出してくれる。(環)	2	3	5
16	・担当のケアマネやヘルパーを導入しないのであれば、母親の介護をしっかりする約束をしてほしい。	0	・長男の精神状態が気になった。	0	・近所の人が気にかけてくれる。(環) ・身内の次男がいる。(環)	0	2	2	・近所が気にしてくれる。(環) ・長男、次男ともに生きている。(環) ・地域包括支援センターの人が把握している。(環) ・食事は用意しているなど完全に放置ではない。(個)	1	3	4

17	・近所の人から虐待ではないかと電話が来る前に気づいて、何かしらの対応ができたのではないかと感じた。	0	・枕元に菓子パンとペットボトルだけ置いて夕方までパチンコをして帰らなかったり、大声で怒鳴るのはあんまりだと思った。	0	未記入	0	0	0	・介護のために20年勤務した会社を辞めた。(個) ・食事を与えている。(個) ・次男が年に数回実家に顔を出している。(環)	2	1	3
18	・ケママネージャーがサービスの導入をして、拒否されているが、何もしない状態になってしまうと死んでしまうかもしれないので、十分に監視しないといけないと思う。 ・介護保険ももっと利用していくことが大事。	0	・母親も長男も悪いとは思わない。担当のケアマネージャーがもっとしっかりやるべきだと思った。長男が必要ないと拒否しても上手に支援していくことが必要だと思う。 ・このまま何もしなければ、母親は死んでしまう。そして、悪いのが長男と決め付けるメディア、このようなことが続くと今後も何も変わらないと思う。	0	・近所の人。(環) ・担当のケアマネージャー。(環)	0	2	2	・介護のために20年働いていた会社を辞める。(個) ・パンとペットボトルを置いている。(個) ・車椅子をレンタルしている。(環) ・ケアマネージャーに支援してもらっている。(環) ・次男が顔を出している。(環)	2	3	5
19	・長男が一人で母親の介護をするのは大変だと思うし、精神的にもとても辛いと思う。 ・しかし、パチンコをしているくらいならもっと別でやるべきことがある。 ・ヘルパーのサービスを導入したほうが良いと思う。 ・母親が脳梗塞になったことで、20年も勤めた会社を辞めたのは辛い。	0	・家族の介護は精神的に辛そう。 ・長男一人での介護は大変だと思う。 ・サービスの導入をしたほうが良いと思う。 ・ストレスがたくさんあると思う。	0	未記入	0	0	0	・地域の人が心配してくれている。(環) ・介護をするために20年勤めた会社を辞めた。(個) ・最低限の食事と飲み物をあげている。(個) ・夕方には家に帰っている。(個) ・3年間介護を続けた。(個) ・パチンコによく行くほどお金を持っている。(個)	4	1	5
20	・介護疲れでこうなってしまったのだと思う。 ・今までは大好きな母親の介護を親身になってしていたはず。それを思うととても悲しい。彼の本心とは思えない。むしろ何年も一人でよく頑張ったと思う。(+)	1	・長男はとても疲れていると思う。疲れているからパチンコにのめりこんでしまった。 ・サービス導入を拒否した理由がわからなかった。 ・パチンコにのめりこんだのは、認知症の母親を看たくなかったからなのか。	0	未記入	0	0	0	・途中まで面倒を看ていた。(個) ・介護の知識がある。(個) ・ご飯を与えている。(環) ・近所の人が見ている。(環)	2	2	4
21	・ケアマネージャーと次男が長男にサービスを受けるよう協力し話すことが必要だと思う。 ・このままだと母親が死んでしまうかもしれないし、長男も菓子パンでは栄養が取れず病気になってしまうかもしれない。すぐにこの状態を終わらせるべきだと思う。	0	・もっと介護保険を使うべき。	0	・ヘルパーサービス導入を拒否している。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・近所の人が気にかけている。(環) ・介護のため長男は仕事を辞めた思いやりがある。(個) ・次男という家族がいる。(環) ・車椅子をレンタルしている。(環) ・要介護2であるため使える機関がある。(環) ・母親を捨てたりしない。(個) ・朝、菓子パンとペットボトルを置く優しさがある。(個) ・担当のケアマネージャーとヘルパーがいる。(環)	3	5	8
22	・長男の介護負担が大きすぎて、このようなことが起こってしまった。	0	・長男の介護の負担が多くて大変。なぜサービス導入を断るのか。	0	・ヘルパーなどのサービスを利用し、長男の介護の負担を減らす。 (解決方法と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・近所の人が虐待を疑って地域包括に電話をくれた。(環) ・介護のために20年勤めた会社を辞めた。(個) ・菓子パンとペットボトルを置いていっている。(個) ・要介護2なので介護サービスが使える。(環)	2	2	4
23	・長男の今とるべき行動をきちんと考え直す必要があると思う。 ・担当のケアマネージャーやヘルパーなども工夫して長男を説得させるべきだと思う。	0	・介護のために会社を辞めてしまったのは、仕方ないと思った。 ・夕方までパチンコをするのはよくない。 ・認知症の母親に対して大声で怒鳴るのはひどいことだと思った。 ・次男の子どもが障害者であるため年に数回しか実家に顔を出すことができないので大変だと思った。 ・サービス導入の話しを断らないでほしいと思った。	0	・長男の食事の与え方や母親に対しての大きな怒鳴り声。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・近所の人が地域包括支援センターに電話をしてくれた。(環) ・長男が介護をするため会社を辞めた。(個) ・長男はパチンコに行ってしまうが、最低限の食事はおいていく。(個) ・担当のケアマネージャーがいる。(環) ・次男が会いに来てくれる。(環) ・車椅子をレンタルしている。(環)	2	4	6

24	・虐待が疑われる。 ・しかし、でも、長男は母親の介護のことだけで怒鳴ったりしているわけではないと思う。(+)	1	・長男は自分の母親と2人暮らしで会社も辞めて介護をしてきてきっと疲れていたのではないかと思う。 ・自分の時間が欲しくて、パチンコを夕方までしているのではないかと思った。 ・でも、虐待をしてはいけないのでもっとソーシャルワーカーなどが話を聞く必要があると思う。	0	未記入	0	0	0	・地域包括支援センターに近所の人が電話をしてくれたため、地域の連携がある。(環) ・母親の介護のために、会社を辞めた。(個) ・食事が用意されている。(個) ・介護保険を利用している。(環) ・次男が時々顔を出しに来ている。(環)	2	3	5
25	・もっと自宅に顔を出して様子を伺いに行くことをしたほうが良い。家族それぞれの人と話し、意見などを聞いたほうが良い。	0	・長男、母それぞれに支援が必要だと思う。 ・虐待はいけないことであるが、経済面、長男への支援、長男の負担を考えるべきだと思う。	0	・長男が一人で介護をしていること。 ・地域社会からも孤立していること。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・介護のために20年勤務した会社を辞めた。(個) ・長男一人で介護をがんばってきた。(個) ・近所の人が気にかけてくれる。(環)	2	1	3
26	・次男の家族に母親の介護を頼むのは難しいと思う。子どもに障害があり、妻の両親と暮らしている以上、母の介護は長男がやるしかないが、ケアマネージャーやソーシャルワーカーなどが、もっと積極的に長男と話し合いをして、アプローチしてもいいのではないかと思う。 ・長男は仕事をしているのか?	0	・次男にも障害の子どもがおり、母親へのサポートができないのは仕方ない。 ・ケアマネージャーがもう少し踏み込んだ支援ができなかったのだろうか。 ・仕事を辞めて母親の介護をするのは、すごいことだが、長男に対しても何か支援ができるのではないか。	0	・母親の脳梗塞 ・認知症 ・要介護2 ・次男は他県におり子どもに障害 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・完全な介護放棄はしていない。(個) ・次男が年に数回帰ってくる。(環) ・パチンコに行くことでのストレス発散している。(個)	2	1	3
27	・他の支援がなければ、母親だけでなく長男まで行き詰ってしまうと思う。そうなると、今以上に母親の介護をするものがいなくなると思う。 ・虐待までは行かないと思うが、命にかかわる問題であることは確かなので長男もしくは次男と話しをして理解をしてもらい、サービス導入をしなければならないと思う。	0	・母親と長男との関係性が非常に良くない。 ・サービスの導入はするべきだ。 ・食事をしっかり与えるべきだ。 ・障害を持つ子どもがいる次男の家庭ではあるが、もう少し実家に顔を出す頻度を増やすべき。	0	・介護のために20年勤務していた会社を辞める。 ・認知症の母親に対して大声で怒鳴る。 ・ヘルパーなどサービス導入の拒否。 (課題と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・介護をするために会社を辞めた。(個) ・頼れるであろう場所がいくつかある。(環) ・少ない回数であるが次男が実家へ顔を出している。(環)	1	2	3
28	・母親に対してのストレスだと思われるが、暴力を振るう行為は許されることではない。	0	・長男はもう少し他人を頼ってみたほうが良いと思った。 ・なぜ息子は、サービス導入の話しを拒否したのだろうか。	0	未記入	0	0	0	・菓子パンとペットボトルを置いた。(個) ・母親と一緒に住んでいる。(環) ・介護のために会社を辞めた。(個)	2	1	3
29	・確かに虐待を思われてもおかしくはないと思った。 ・認知症がある以上は、徘徊したりさまざまなことが起こりうるから、早くに支援をしていく必要があると思った。 ・次男がなかなかくることができないなら、長男がもっと積極的になっていくことが必要だと思った。 ・サービス導入についてもっともっと話しをしていくことが大切だと思った。	0	・完全に虐待であると思った。 ・介護をするのは長男のため、無責任すぎると思ってしまった。周囲に相談するなどして協力してもらうなど、工夫していくべきだと思う。 ・母親に当たるという行為は決してしてはならない。 ・だが、その中で次男が年に数回でも顔を出すというのはとても良いこと。(+) ・しかし、もう少し顔を出す日数を増やすことはできないのか。	1	・地域包括支援センターとケアマネージャーが協力し合って支援をしていくことが大切。 (解決方法と勘違いしたと思われる記載)	0	0	0	・食事を置いていくこと。(個) ・車椅子をレンタルした。(環) ・会社に20年勤務したということで継続する力がある。(個)	2	1	3
合計		4		4		1	9	10		62	57	119

※「率直な感想」において1回目より2回目の回答が減少した箇所に網かけをしている。また、「ストレングス」において勘違いしたと思われる回答に網かけをしている。